

自治大卒業生の声

自治大学校卒業生（第2部課程第209期）

埼玉県幸手市 教育部社会教育課 野村 雄基

編集者注：本稿は、自治大学校における研修の特長などについて、自治大学校の卒業生が記したものです。

1 はじめに

私は、令和7年9月～11月中旬の約2か月半、自治大学校第2部課程第209期生として研修に参加しました。

自治大学校の研修は、通常の公務員生活では経験できない貴重なものであり、今後、この研修に参加する方の参考になればと思い自分の体験を記します。

2 入校が決まるまで

私が人事部から自治大学校の研修受講の打診を受けたのは、4月下旬のことでした。自治大学校に行けば大きく成長できるかもという思いはありましたが、上司や同僚に迷惑がかかると思い、最初は断りました。しかし、上司や同僚は、「こんな機会は滅多にないから、気にせず行ってきなさい」と逆に背中を押してくれ、家族と相談し、研修を受講することを決めました。

3 入校が決まってから-事前課題-

入校が決定してから入寮まで1か月半程度ありましたが、思っていた以上に事前課題があり苦戦しました。事前課題は事例演習で使用する各自治体での行政課題検討資料の作成や、基本法制課目のe-ラーニングの履修等がありましたが、e-ラーニングは時間にすると約50時間あり、日々の業務の中で履修する時間を捻出するのは中々難しく、私は研修の前日までやっていた（笑）。

4 基本法制課目-効果測定-

研修が始まって最初の1か月は主に基本法制課目（地方自治制度、地方公務員制度、地方税財政制度、憲法、民法、行政法）の講義でした。地方公務員としての基本的な知識や、実務に即した法令・制度をあらためて体系立てて学ぶいい機会となりました。

基本法制課目のうち民法を除いた5課目については、効果測定（テスト・レポート）があり、その結果は研修の1か月後に所属先の人事部を通じて本人に通知されるため、みんな必死に勉強していました。過去に自治大学校を卒業した先輩から助言等をもらうことで、ある程度対策はできましたが、改めて日々の勉強の大切さを痛感しました。

基本法制課目以外の講義では、様々な分野の地方公共団体を取り巻く諸課題や今後の自治体の在り方について講義いただき、地方公務員としての知見を広げることができました。

5 演習科目について

① 政策立案演習

政策立案演習は、モデル自治体を決め、その首長に具体性のある政策提言をすることを想定した演習です。私たちの班は、より具体性のある政策提言とするため実地調査に力を入れ、モデルとした自治体やいくつかの関係企業を訪問し、具体的な地域の課題を設定することができました。しかし、そこから課題を解決する政策提言をどうするか難航してしまい、期限の直前まで完成できず、焦りだけが募っていきました。そんな中、内部教官が時間を割いて親身に相談に乗ってくださったおかげで糸口が見つかり、班

員がそれぞれの役割を果たし、死力を尽くすことで、なんとか最後には納得のいく政策提言ができました。本当にありがとうございました。

② 事例演習

事例演習では、事前課題で提出した各自治体の行政課題等について、討議しました。各自治体の生の声を知ることができ、規模や地域性が異なる様々な自治体職員が参加しているからこそ出る意見も多かったため、新たな考えや発想、価値観を知ることができました。

6 苦楽を共にした仲間たち

研修期間中は、講義や演習、課題に追われる忙しい日々でしたが、そんな中で支えとなったのが同期の仲間たちです。寝食を共にし、多くの時間を共有する中でかけがえのない存在となりました。この原稿を書いている際も、仲間たちと談話室で過ごした日々や休日に出かけた日々を一番に思い出しました。この仲間たちとの繋がりをこの先もずっと大切にしていきたいと思えます。

また、教務部の方が研修生に募集し、文集としてまとめてくださった、仲間たちの「公務員人生の中で受け取った私が大切にしている『ことば』」は、つらいときに読み返すと、仲間たちの顔と自治大学校での生活が思い出され、今でも心の支えとなっています。

7 職場に戻ってきて

自治大学校から戻ってきて1か月以上過ぎましたが、研修で学んだことが活かしているかという点はまだ実感はありません。しかし、自身の意識として大きく変わったことは、「市にとってためになるのか」という広い視点で常に物事を考えるようになったことです。「今後、どの自治体も人口減少が進んでいく中で、住民から選ばれる自治体

になるためになにができるのか。当たり前のことを当たり前にするだけでは、ただただ人口減少を眺めていくだけ。」という講師の言葉が今も心に残っており、どんな業務でも当たり前に取り組むのではなく、市全体のためになにができるのか考えながら行動するようになりました。

8 おわりに

社会人になった後に、約2か月半もの間仕事から離れ、研修として勉強（同期の仲間たちとの交友含む）だけに専念できる環境は、自治大学校の他にないと思います。自治大学校での研修は、私の人生にとって大変貴重な経験であり、苦楽を共にした仲間たちは一生の財産になりました。この素晴らしい自治大学校での経験と感動を共有できる方が一人でも多くなることを心から願っております。

最後に、自治大学校に快く送り出してくれた職場の上司や同僚、丁寧にご教授いただいた自治大学校の教官や教務部、関係者の皆様、共に支えあい、かけがえのない時間を過ごした研修同期の仲間たちに心から感謝申し上げます。



(洗心寮6階フロアメンバー フロアパーティにて)